
essais ころみ 2025年5月

2025年5月1日（木） 晴れ

火曜日から晴天が続く。カラッと風はつめたくさわやか、新緑も映える。今日から五月、快適な時季が年々みじかくなってきたから、今月は「野に出よう」。

一 「印象」は未来の予告か
「閃き」は『転ばぬ先の杖』かー (2)

『独りの時間、静寂の〈間〉』 ②

掃除や馴染みの公園の散歩など、カラダがおぼえている作業や動作は、頭を働かせる、思考をよくめぐらせる。料理がその時だという女性科学者もいた。

独立以降で二度、休日に家で掃除機をかけながら、決定的な決断をした。掃除機の音がうるさいけど、頭の中は囲われて、自分の世界に入れる。

直近にあった出来事、ここ数日に感じたことなどがめぐる。はたまた自分の仕事と人生を見渡して…。

廊下から部屋、部屋から廊下、掃除機をひっぱり回しながら、頭の中に自分が入ったようにみるうちに、ある瞬間、“…そうだ、そうしよう!”。

一度は2005年春のこと。その数か月後に、その決断にそった仕事が思いがけないところから舞い込んだ。

二度めは2010年1月のこと。「中井正一」の言葉を地でいった。表立っていないが、そういう決断であった。

『前の時間がそのまま流れているのは滞っているのである。切って、捨てて、脱落して、新しく生まれるからこそ生きているのである』 (中井正一)

仕事でたくさんの人と出会う。26年前はまだ若かったから、セミナーの男性受講者に一方的に好意をもたれ、付きまとわれたことがある。

この時に気づいた。頭の中を余計なことであらわれない自分。男性の行為に悩まされ、気をとられてストレスになっているのがすごく理不尽におもえた。同じストレスでも前向きなことではないと。

男性には直接はっきり言った。ものわりはよい人で、妙な展開にならずに済んだ。いまの時代なら、ちょっとややこしくなったかもしれない。

何かをしてても、独りの時間をもつこと。自然に頭がめぐりような〈間〉をもつこと。なぜか誰かのことを思い出し、前日の打ち合わせをふり返し、数日前に人に聞いた話をなぞるような合間。

思い出したことに意味を感じて相手に手紙を書く、打合せ時点では注目しなかったことに気がとまり次の一手を打つ、聞いた話に関連する情報をあたる。時にトラブル回避につながったこともある。

頭の中を草原のような状態にしておく。ちょっとした勘違いや言い方をされ気分を害すこともある。正すほででないのが普通だし、自分も同じだろうし、スルー。頭の中を広々とさせて、天の恵み待つ。

2025年5月5日（月）立夏 祝日の堺筋、これほど車の少ないのもめぐらしい



2025年5月5日（月）立夏 晴れ

大型連休後半、さわやかな晴天が続く。街も町も新緑が目にはやさしく、清々しい。今日は立夏で「子どもの日」。かしら餅を買いたいけど、梅田へ出るのも、スーパーのものを買うのも…。

- 一 「印象」は未来の予告か
「閃き」は『転ばぬ先の杖』かー (2)

『独りの時間、静寂の〈間〉』 ③

「自分の将来のことなんて、考えたことないです、そういわれると…」。40代なかばで再びシングルになった女性の相談にのっていて、相手はつぶやくようにそう言った。

夫、子ども、舅や姑の世話に追われと、そうもなり得るのか。じゃ結婚前はどうかだったのか。「うーん、どんな風に考えていたのか、なんか、今ではもう思い出せません…」。

もともとそれほど考えない性質かもしれない。まさか自立せざるを得ない状況になって、途方にくれた。当面の生活状況を確認しながら、段階的なアプローチを助言した。単発の案件だったから、その後を知るよしもない。

一昨日晴れの休日、洗ったカーテンを元につけながら、ふとある考えがわいた。女性には3つのタイプがあるかもしれない。個を生きる人、野心の実現に女性性を使う人、他の付屬的に生きる人。

ほんの勝手な着想だが、メモしたから、ここに書いてみた。どれがよいわるいの話でもなく、自分はどう生きるかを考える時の目安にしたかったのかもしれない。

「この間、ぱっと、気づいたことがある。自分の守りたいものの究極は自分の精神性！。そう書いて見せられたように、はっとして、すべてがわかったような…」。

聴いていた4人はキョトンとした。会社員時代の友人たちと久しぶりに会って話して、最後に近況をふられ、直近最大のトピックを話したのだった。今から10年前のこと。

しばらくして1人が、いったい何があったのかと尋ねた。よほどのことがないと、普通はそんなこと考えないと。うん？いつも考えてるけどを返すと、また少し間があった。別な1人が「哲学的やね」と締めくくり 話題を変えた。

考えがちな人はどうしても考える。考えなくて済む人は考えなくて済む。それで合っている、精神衛生上もいいのだろうと思う。わたしには自分の頭の中をみる時間が必要だ。

2025年5月8日（木） 晴れ

今日は朝からよく晴れている。風はまだつめたい。日中は25°Cまで上がる予報、カラっとして散歩にちょうどよい日和。

- 一 「印象」は未来の予告か
「閃き」は『転ばぬ先の杖』かー (3)

『気配、雰囲気』 ①

気配、「古くは〈けわい〉、はっきりとは見えないが、漠然と感じられるようす」。

雰囲気、「その場やそこにいる人たちが自然に作り出している気分、また、ある人が周囲に感じさせる特別な気分、ムード」。

事務所開設30周年、あえて辞退した仕事が一度だけある。俗にいう営業はしないので、こちらをわかって声のかかった案件で。

マッチングする機関からの仕事だった。彼らはケースをたくさん扱っているから、コンサルされる・する双方にズレはあまり無い。

何の不安もなく担当者とともに先方の事業所へ行った。いつものように予備面談を始めたが、そのうち、“ちがう…”。

こちらの尋ねることへの返し、その話し方、言葉の選択、表情、視線、など等、初めて接する感じだった。

理念を語り、実践の進展の語る。その現場にして話を聴いているから、疑う余地はない。しかし響いてこない。

乖離があるように感じた。理想を語る言葉、物理的な設備は整っているが、その根本にあるべき〈温かみ〉が伝わらない。

ちょっと空おそろしい感じがした。ただしこれはまったく個人的な感覚、他の人ならそんなこともなかろう。

帰り道、担当者に最初はそれとなく、「わたしで事足りるでしょうかね」。担当者も何か感じたようであった。

「そんな風に言われるのは珍しいですね、勝手にちがいますか?」。そこでここぞとばかり、「たぶん他の人の方がいいと思います!」。

快く受け入れたもらった。たぶんそのまま進んでいたら、成果どころか、トラブルに発展したかもしれない。

当然後ろむきのストレスをかかえることになったろう。時間をおかず辞退を申し入れて、よかった。了承してもらって、救われた。

2025年5月8日（木） お昼の買い物がてら、中之島のバラ園



2025年5月12日（月） 曇り

昨夜すこし雨がふった。晴れるのは夜になってからのようで、日中は曇マーク。風がつめたく、衣替えして夏の制服の小学生たち、すこし寒そう。

- 一 「印象」は未来の予告か
「閃き」は『転ばぬ先の杖』かー (3)

『気配、雰囲気』 ②

夕方の、夕暮れまでいかない、陽が傾きだしてしばらくした時間帯が子どもの頃はいやだった。そう感じた瞬間のことも覚えている。

何というか、陰陽でいえば、陰の気配のようなものを感じた。否、まるでこの目で見ているような気がした。

かといって、取っ払いたいという気持ちはなかった。そもそもそうできるものでないとどこかでわかっていた。

10代の終わり頃にはすっかり馴染んでいた。日中の終わり、夜の始まり、そのつなぎの自分を仕切りなおす〈間〉。

『悲しき熱帯』（レヴィ・ストロース）に夕方の時間帯にふれた箇所があった。ああ、そう、そう、という感じがした。

薫風五月。夕暮れ前の時間帯を堪能するのに今が一番よい季節。近場の公園を散歩するだけで仕切りなおせる。

緑の中のカフェでリースリングでも口にしながら木々をみて、空を見上げれば、もうそれだけで〈整う〉。

仕切りなおして、整えて、明日をまたむかえる。

2025年5月12日（月） 夜に清水明美さんのピアノサロンコンサート



2025年5月16日（金） 曇のち雨

今日は午後から雨の予報。昨日から少しムシっとする。明日あさってにかけて荒れ模様の予報。「梅雨の走りのような」とは、ちょっとはやい。

- ー 「印象」は未来の予告か
「閃き」は『転ばぬ先の杖』かー (3)

『気配、雰囲気』 ③

先月だったか、新聞に載った研究成果は目をひいた。受精時の気候の寒暖がのちに肥満リスクと関係するという。

東洋医学の基礎部分では、どの季節に生まれたかによって体質をわけている。理にかなっているわけか。

トマトにはリコピンと同じ効用の「エスクレオサイドA」という栄養素があると最近わかったらしい。透明なので認知されにくかったとか。

生まれる前の環境が自分のカラダに影響していたり、見えないけどよく働いている栄養素があったり。

宇宙の物質は4%しかわかっていないというし、この世は見えていないものだらけと言ってよさそう。

気配や雰囲気というのは、はっきりとは目にみえないけど、見えているように感じならなおさら、スルーしてはいけない。

今でははっきりそう考える。でもずっと以前から、それらを抛りどころにしていた気がする。

スルーしてしまうと、あとで”しまった…”。仕事上で過去に2度ある。もう少しあったはずだけど、印象にのこるのが、2つ。

以来、特に仕事では注意する。感じたものを、“これはどういうことだろう…”などと吟味する。そして次を考える。

ある時は自分にお祓いをした。仕事で初めて会った相手だったが、なんというか、邪気を感じてしまった。

こちらの問題としてそう感じたということ。そのまま事務所に帰るのも、帰宅するのも、ダメな感じがした。

ひとつ閃いた。ちょっと遠回りにはなるけど、近い距離に神社がある。そこへ寄り、入りはせず、鳥居の前に立った。

どこでも手を合わせるものじゃないと親から教えられている、だからご挨拶程度に軽く手を合わせ、礼をした。

これだけでいい、個人的な気のものだから、一つの方便として自分なりの儀式。気がはれた。

ところで、今朝よんだ『最終講義』に、「勘所をおさえた配慮」という言葉あった。

熟練者は「あれこれ勘どころをおさえた配慮」によって、事をうまく運んでいる、それも当人はあまり意識することなく。

「勘どころ」。さてその手前には、「気配」や「雰囲気」の察知があるのではないか。

2025年5月19日（月） 曇のち晴

先週九州南部が梅雨入りした。沖縄よりも早いのは初めてとか。その日から大阪もムシッとしてきた。16日の土曜は梅雨時季のような雨の降り方だった。今週の予報はほぼ曇マーク。近畿もこのまま梅雨入り？

一 「印象」は未来の予告か

「閃き」は『転ばぬ先の杖』かー (3)

『気配、雰囲気』 ④

『最終講義』を進めながら、気配や雰囲気を感じる、みる、ということの認識を新たにしつつある。

出来事の「リスク回避」あるいは「改善」や「機会」といった外部的なことへの貢献だけに目がむいていた。

そもそも「感じる」、「感じられる」は、精神的に健康で、そうでないと、そういった感覚が意識にのぼりにくいとは…。

一つ思い出すことがある。仕事で相手に尋ねることになるワンフレーズがある。「それで、どう感じましたか、考えましたか？」。

8年ほど前だったか、ある相談者の話をきいていて、そう尋ねた。大抵の人は、なんとなく言葉を返してくる。

人によっては、日頃から自分の観察がよくできているらしく、言葉を適切に選び、細かな心模様も話してくれる。

ただしそういう人は多くない。個人的な経験では、2割程度。ほとんどは、ざっくりとした、表面的な感想がかえってくる。

それも返ってこなかった。こちらが尋ねて、返事がかえる一般的な間をこえても相手から言葉が出てこない。

”…?”、待った。相手はまるでフリーズしたような様子。

待つ限度のタイミングで同時に、こちらは「いやいや、特に何もなければ…」、先方は「…急にきかれて、記憶が…」。

難しいことではなく、本人自身が経験したことについて尋ねている。適当にかえすこともできるのに、どうしてだろう。

その時点では、「聴覚情報処理障害・APD」かもしれないとおもった。ひよっとすると、経験を「感じる」に問題？

ぱっと見た目にはわからないその人の得手不得手ある。直近では言葉、読解が苦手という人がいた。

人を支える仕事、いろんなことを知っておかないといけない。想像力と受容力も養わないといけない。あらためてそう感じる。

『最終講義』によれば、ランダムに数字が言える、「枠の中をでたために仕切る」ができるのも健康な証拠という。覚えておこう。